

## 「大型医療機器の経済性評価に関する研究」報告書について

米国医療機器・IVD工業会（AMDD: American Medical Devices and Diagnostics Manufacturers' Association）はこのほど、「大型医療機器の経済性評価に関する研究」報告書を発行致しました。

AMDDは、最新の医療技術を日本の患者さまにお届けするため、日本の診療報酬体系のあるべき姿について政策提言を行っております。また、そのために医療技術の適切な経済性評価は大変重要であると認識しています。一方、最先端の医療技術に対する経済性評価の方法と導入プロセスについては、諸外国を始め日本でも多くの課題が指摘されているものの、対象が医薬品や医療材料に限定されている場合が多く、画像診断や放射線治療、手術等で用いられる機器の保険償還としての手技料に関しては体系的な研究が殆どありません。

そこで、中立的な立場からの問題提起と提言を目指した調査・研究を外部機関にお願いすることとし、東京大学大学院医学系研究科臨床疫学・経済学 福田敬先生（現 国立保健医療科学院）に研究を委託しました。本研究報告では、まず現状の大型医療機器を用いた医療技術に対する評価を行い、次に具体的な技術を2件取り上げて経済評価を実施し、大型医療機器の経済評価の課題等についての提言がなされています。

また、本研究の開始から少し遅れる形で、中央社会保険医療協議会においても費用対効果の検討が行われることとなり、同じく多くの課題が指摘されています。AMDDとしては本報告書が示している課題や提言を踏まえ、関係者における慎重な議論を期待すると共に、中央社会保険医療協議会の議論や世論に耳を傾けながら、皆様と共に将来的な方向を提言して参りたいと考えております。

---

<sup>1</sup>本研究報告書では、経済評価手法の1つとしてQALY（質調整生存年＝Quality Adjusted Life years）が採用されていますが、AMDDとしてはQALY等、特定の評価手法を推奨する立場はありません。

また、今回の経済評価研究は、いずれも「医療費支払者の立場」からの分析に限定していますが、実際にはこれに加えて医療提供者等の「社会の立場」からの分析も行うことが望ましいと一般的には考えられています。